

## 琵琶湖 京都の旅

3月9日日曜日、仕事を終わったのは23:30分。あけみさんと急いで家に帰り、着がえて即出発！名古屋高速星崎インターから入り、小牧インター経由で名神高速を彦根に向かう。

途中養老サービスエリアで突然の便意を催し、10分間のロス。少しスピードアップして140kmくらいで彦根に向かう。彦根インターからは、カーナビの指示にしたがって「エキシブ琵琶湖」へ案内される。ホテルに予約時知らせてあった2時ジャスト到着。チェックインして室の風呂に入ってぐっすりと眠る。A Hard Days Night !

朝8時に起きてレストランへ、朝食バイキングに行く。このレストランは地下にあるので、景色も見られないのでゆったりとした朝食もとる気になれず、簡単に切り上げて室に戻る。さあ、風呂風呂。昨夜遅くって入れなかった温泉へゴー！ 混浴ではないないので、入り口で一時間後の待ち合わせでそれぞれの浴場へ向かう。

ここの浴場は、ジャグジーになっていて半が室内、半が露天になっている。さすがに朝からはいる人も少なく、俺と他一名だけ。その一名もまもなく出て行ってしまい、後はずーと貸しきり状態。露天のジャグジーに浸かってゆったりと骨休め。

五十分程で出て来ると受付にはもうあけみさんがお待ちかね。部屋に戻って荷物をまとめて、10時30分チェックアウト。 一路京都へ。

カーナビを京都御所に設定して向かう。道路も空いていて短時間で御所に到着。

観光客も少なく、静かな玉砂利の前庭をのんびりと散策。御所の通用門で、一人の狂女が大声で喚いている。ご用達で入る車の為に柵を開けると、一緒に入ろうと何度も試みているようだ。二人の警護官も、大分まえから繰り返しているみたいで、軽くあしらっている。そんな風景を横目で見ながら、ゆっくりと散歩。「蛤ご門」のところまで来ると、門柱や扉のそこかしこに「蛤ご門の変」の時の銃弾の弾跡が見られる。

いにしえの幕末期の歴史を思いつつ、そろそろ御所を去る。さあ！次はあけみさんのお供で、古道具屋さんが集まっている寺町通りへ出発。車を寺町通りの駐車場へ移してお店めぐり。本物の古陶器類は、骨董の部類に入るのでとても手がでない。これらは見るだけ。しかし雑然と並べてある大量の古陶器の一つ、二つ、手に取って見ても数万円、十数万円、の値段が付いている。何百万のも有るみたい。いったい何億円の陶磁器があるのだろう。感動。

寺町通りを一キロほど南に下ると、寺町通りと新京極通りに二股に分かれていて、左手の

新京極通りの方向へ歩いて行くこのあたりから、アーケイドになっていて、人の数も相当多い。京都で一番の繁華街なのかな？

お腹もすいた頃なので「吉匠」という名のうなぎやさんへ入る。

このうなぎやさん、かなり大きくて、新京極通りと寺町通りの両方に入り口が有る。サンプルケースで、「花膳」と「雅膳」に決めて入店。落ち着いた店造りに年配の男の店員さんの、物腰の柔らかい接客に京都を感じる。ゆったりした気持ちで、熱燗を二本飲み、料理をいただく。

あけみさんの注文した「花膳」は、うなぎと金糸卵のまぶし、刺身、塩鮭の切り身と一口おにぎり、鮨二巻、赤だし、香の物、京都で赤だしとはちょっとびっくり。俺の「雅膳」は、うな丼、にゅうめん、大根の煮付け、茶碗蒸し、香の物。うな丼のたれが、名古屋のものに比べて少々薄口で、とろりとした甘辛口になれてしまっている名古屋人には、ちょっと頼りないかな？ 京都の味と情緒を堪能して店を出る。

丸田町通りまで歩いて、帰り道は、寺町通り側を歩いて帰る。まだおみやげを何も買っていない事に気が付いた。「京都と言えば漬物でしょう」と意見が揃い、老舗っぽい漬物屋さんを見つけて入る。どれもこれも見るからに美味しそう。一つずつ味見をさせてもらったが、どれも中々の美味しさに迷ってしまう。京都の漬物と言えば、やっぱり、「聖護院漬け」。五つほど買い込み、おみやげにする。

もう一軒、こちらに来る途中に見つけておいた魚屋さんに寄り、「小田巻き」を三パック買い、とことこ歩いていると美味しそうなパン屋さんを発見。「朝食用のパンでも買いましょ」と入ったら、美味しそうなケーキが一杯あるではないか。イチゴ山盛りの「イチゴタルト」がとても美味しそうなので、我が家と、長女の奥田家と長男の中島家 2 に買い込む。おまけに大きなシュークリームが特売だったので、それも買い込む。本当に我が家は食べる事大好き一家で困る。おみやげも一杯になり、そろそろ帰りますか。

名神高速でいっきに名古屋まで帰る。道路も空いていて、六時頃には家に着いてしまい、子供たちも誰もいないので、夕食を兼ねてカラオケへ出かける。

結局家に戻ったのは九時半頃。我々はよく遊べる夫婦です。 本日終了